

FRAU

COVER STORY

柴咲コウ

FASHION & BEAUTY MONTH

FRAU IN STYLE

APRIL ISSUE

FR@U アットフラウ
<http://frau-web.net>

頭もキレイなひと
[フラウ]

貼り込み別冊付録

FRAU ORGANIC
BEAUTY BOOK

VOL.1 基礎からはじめるオーガニックビューティ

4

APRIL
2013 No.450
600YEN
毎月12日発売

2013春夏ビューティ、これだけは!

ポーチには、口紅1本でいこう
今年「リアル美白」
ベースアイテム新調の正解プラン
眉毛問題2013
最小にして最大効果アイメイク
etc.

滝沢秀
3/29写真集発売

石垣島マラソン
Report

LIVING BEAUTY
暮らしだけで
キレイになれたら!

LIVING BEAUTY I

美育生活111のアイデア

LIVING BEAUTY II

肌がキレイな人の「美食住」拝見!

LIVING BEAUTY III

忙しいのに美しい人の「ソト美容

Medical

病は突然、私にも……

vol.22

»松岡久美さん(38歳・ホームヘルパー)の場合

下肢静脈瘤

松岡久美さん(仮名)

1974年生まれ。23歳で結婚。2人の子どもを育てながらホームヘルパーの資格を取得し、現在特養老人ホームで主任を務める。172cmの長身を活かしてママさんバレーのエースアタッカーとしても活躍。スラリと伸びた脚は羨望の的だが、実は猛烈なかゆみに悩まされていた。

取材・文/小峰敦子 イラスト/長谷川ひとみ

な

り手のない委員長や部長は引き受けるし、恋のキュービッドとなって告白の橋渡しはするし。松岡久美さん(仮名・38歳)は子どものころから、人から頼られると何かしなければと思ってしまう性質だ。

23歳で結婚して夫の故郷で暮らし始めると、スポーツの経験がないにもかかわらず、地元のママさんバレーチームに入ってしまった。172cmの高身長を買われてスカウトされたのだ。

「スカウトというより懇願です。よそ者の私に、チームを助けてくれと言っんです。これは何とかしなければと思いました」

ママさんバレーは25歳以上でなければ出場資格が与えられない。だからみっちり練習を積んで、2年後に前衛のプロロッカーとして華々しくデビューした。普通、目立つのはアタッカーのほうだが、弱小チームはスパイクを打たれる一方で、プロロッカーがひたすらジャンプせざるを得ない。勢い、久美さんが華々しく活躍するはめになったのだ。

結婚4年目と8年目には、女の子を出産。久美さんは育児の傍ら、介護の勉強を始めた。

「近所の特養老人ホームをボランティアで訪ねた際、人手不足で困っていると聞いたので……」

これも何とかしなければと思ったのだ。頑張っってホームヘルパーの資格を取得すると、その老人ホームで週2日のパート勤務に就いた。乞われてそれが3日になり、4日になり、ついに正社員としてフルタイムで働くことになった。

バレーのほうも腕を上げ、

エースアタッカーに成長した。夫も娘たちも、お年寄りに優しく、強くて、かっこいいママが自慢だと言ってくれる。

久美さんは充実した毎日を送っていた。そんなある日のこと。職場でいつものようにズボンの裾を腿までたくし上げ、半身麻痺のお年寄りを入浴させていると、かすかに「ダイジョーブ？」と声が出た。

そのお年寄りが、「ダイジョーブ？ 痛くない？」とつぶやいている。久美さんのきれいな脚がひざの横側だけ、どす黒く腫れ上がっていたからだ。

「その人は病気の後遺症で言葉が不自由なんです。一生懸命、私に声をかけてくれた。『大丈夫？ 痛くない？』というのはいつも私が言うセリフなのに、逆に心配させちゃいました」

実は、久美さんはもうずいぶん長い間、脚のかゆみに悩んでいた。きつかけは出産だ。

初産のときには、妊娠中に足首の血管がポコッと浮き上がった。まあ、そういうこともあるのかなとあまり気にしなかったが、2人目の出産では足がむくみ、ひざの辺りがかゆくなり始めた。出産後いつまで経っても、かゆみは止まらない。クリームを塗っても効果はなく、眠っている間もかきむしっているようで、シートが血で汚れた。さらに、バレーの練習中には足がつるようにもなった。

「筋肉が落ちたのか、体質が変わったのか。いずれにしろ、もう歳なのかなと思っっているうちに6〜7年経ってしまったのですが、ヘルパーがお年寄りに心配されるようではいけません。ようやく診察を受ける気になりました」

たまたま皮膚科の病院が休診だったために総合病院で相談すると、血管外科を

紹介された。(え？ 血管?)

腑に落ちなかったが、診断はすぐに下された。久美さんを長年悩ませていたかゆみは、下肢静脈瘤の症状だったのだ。

「下肢静脈瘤というのは血管がポコポコと腫れるもので、お年寄りがなるものだと思います。まさか、かゆみや足がつることこそ典型的な症状であり、30代にも多い病気だとは」

しかも、症状はどんどん進み、痛くて歩けなくなることもあるという。チームでも、老人ホームでも、そして家庭でも頼りにされている身としては、さつさと治さなければならぬ。久美さんは迷わず、手術を受けることにした。

「何年も悩んでいたのに、手術は日帰りレーザー手術で、あつという間に終わりました」

術後3週間は強力なサポーターストッキングをはかなければならない。これが並の力でははずせず、手術よりもこっちのほうが大変だったが、久美さんは解決策を見つけた。ゴム手袋をはめた手ではくと、着脱が簡単なのだ。

早速、このはき方を応用して、お年寄りが洋服やストッキングを簡単に扱う方法も編み出した。どこまでも頼りになる久美さんだ。

それから2ヵ月。しばらくバレーを休んでいたが、大事な試合でどうしてもと頼まれ、急遽ピンチサポーターとしてコートに立った。スエットパンツを脱ぎ捨てると、「わあ、きれいな脚ね」というざわめきが起こった。

(よしっ)

試合は押され気味だから何とかしなければ。ここでサーブを決めてやる。

下肢静脈瘤とは?

脚の静脈が太く浮き出たり、コブのように膨らんだりする状態を下肢静脈瘤といいます。加齢によって発生の頻度が増加することは確かですが、30歳以上の約6割の人に静脈瘤が認められたという報告もあり、決して老人の病気というわけではありません。妊娠や出産、立ち仕事によって発生しやすく、女性のほうがリスクは高くなります。外見上の問題だけでなく、放置しておくと痛み、むくみ、かゆみ、こむら返り、皮膚炎、腫瘍など血行不全に伴うさまざまな症状が重症化し、まれに血栓ができてエコノミークラス症候群になることもありますので、ぜひ早期に治療を始めてください。



阿保義久 Yoshihisa Abo
北青山Dクリニック院長
東京大学医学部腫瘍外科・
血管外科非常勤講師。下肢
静脈瘤のレーザー治療を確
立した第一人者。治療・研
究の傍らNPO法人ドクターズ・ネットワークも主宰する。下肢静脈瘤レーザー治療センター <http://www.kmlaser.com/>